慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	中川正左著 鉄道論改訂増補版
Sub Title	
Author	増井, 幸雄
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.12 (1921. 12) ,p.1704(150)- 1705(151)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19211200-0150

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

との關係を Marx 主義とは反對に置いてゐる。Marx 主義に於いては、政治的に勝利を得た社會黨が其得た權力を以て經濟的關係を修正すると云ふのである。要するに此派は非議會政策、總同盟罷工を主張する極左黨である。

今日に於て、伊太利社會主義に於ける二大系統即 Reformismus と Sindacalismus とは不俱戴天の敵として相對立してゐる。乍併伊太利社會主義者の多數は、其兩派の中間に在る社會民主主義の正統派に屬してゐる。此派は、社會黨中に社會主義の一切の要素を包容することを主張するより、Integralismus と稱せらる、其代表的首領は Enrico Ferri である。

以上を以て大體本稿を終らうと思ふのであるが、未だ右の Integralist 其他に就て述ぶ可き事が殘されてゐる、併し其は他日稿を新にし得るの機會に讓り度いと思ふのである。（完）

新刊紹介

中川正左著　「鐵道論」　改訂增補版

嚴松堂發行
菊版二七〇頁
定價金貳圓五十錢

本誌本年一月號に批評紹介した中川法學士の「鐵道論」は大正八年十月初めて鐵道講習會から發行せられてより大正九年四月に至るまでに既に四版を重ねて居つたが、今回舊版に改訂を加ふると同時に增補を行つて嚴松堂から出版せられることとなつた。

新版は舊版に比して頁數に於て却て九頁の減少を來したが、一行の字數が詰つて居るから之を普通の字詰に引直すときは三百二十一頁に相當する、即ち正に五十五頁の增加に相當する。而して此の增加は主として「鐵道國有」及び「我國有鐵道の現況及び特色」なる二つの章が新に加へられた爲めに生じたものである。

新に加へられたる「鐵道國有」の章は、本邦に於ける鐵道國有の顚末を記したもので、即ち第一節に於ては既に明治五年の工部省の鐵道會社取扱の儀に付伺定中に明かに示されてある鐵道國有の趣旨が、結局明治三十八年西園寺內閣の提出に係る鐵道國有法案の通過によつて實現せらるゝに至る迄の迂餘曲折を叙し、第二節に於て鐵道國有法の內容を概說し、第三節に於て國有後の實蹟をば主として數字を用ひて示して居る。而して「我國有鐵道の現況及特色」の章に於ては是れ亦數字を用ひて現況が說明せられ本邦鐵道の特色五つが擧げられて居る。猶ほ最後の章「鐵道勞働」中の第二節現業員待遇中に「現業委員會」の一款を加へてその組織を述べてある。

改訂の個所に就ては、大體に於て、統計を新にし、法規や經營法や組織などの變更に伴つて事實の叙述を之に合致せしめたといふに過ぎずして、全體の結構や意見には殆んど變更を來し て居らない。

新版と舊版との比較は大體右の如くであつて、概して云へば、新版は舊版とその性質に就て異なる所はない、從つて先きに私が舊版に對して加へた批評は今猶ほその儘に新版に向つて加へ得られる。殊に本邦鐵道の實際的說明に詳しくして理論が比較的少いといふ感じは、新なる二章一款の挿入によつて益々深くなつた。私は著者が常に改訂を加へて最近の狀態に於ける本邦鐵道の實相を傳へむとするの勞を多とせざるを得ない、がそれと同時に本書をして今少しく理論に强からしめられむことを囑望するものである。（增井幸雄）

森莊三郎著　**勞働保險研究**

四六判二九二頁
上製貳圓四拾錢
有斐閣發行

本書は東京帝國大學に於いて保險學の講座を擔當する博士が大正六年より大正九年に至る四